



玉置山に胎動が！



8月8日参拝者500人余

大日堂社大祭

大日堂は古き昔より存在していたが玉置神社の境内に跡地のみ残っていた。昭和の年代そこに大日堂として再建された。大日堂社大祭は8月8日に斎行されてきている。この1〜2年の間にこの大日堂社と出雲大社玉置教会に対する関心も優れて高まってきている。当日の参拝者は約500人。大日会関係者による護摩作法はパワフル・圧巻。これは祈りの演舞か。参列者の方いわく玉置山に胎動が押し寄せてきているのでは。この賑わいは！





祈りのけむりが玉置山に流れる

祭主祝詞奏上



出雲大神宮の岩田宮司参列



祈りの舞



宮司挨拶

大日堂社から 世界平和の祈り

祭儀をみまもる関係者や
参拝者の皆さん



身を清める手水



隊列を整え参進



食前食後食(じき)作法



参拝

正式参拝研修旅行 白山比咩神社へ

神職も同行する正式参拝研修旅行は伊勢神宮、出雲大社につづき今回は3回目で白山比咩(ひめ)神社へ9月12日・13日実施。白山比咩神社のご神体は菊理媛神(くくりひめのかみ)玉置神社の白山社にもご鎮座されていますね。観光旅行ではなくて研修旅行であるので服装、マナー、その他についても遵守いただくこといささかルール化して実施してきている。窮屈な思いされたかなとスタート時は懸念しましたが皆さんこのような旅行を体験してみたかった、心身ともにサッパリしましたとの感想を毎回いただいております。今回は神道を学ぶ学生さんも参加され、参加される方々の層がまた厚く広がりましたね。夕食後は短い時間ですがフリーで交流の輪が一挙に広がります。これは思い出のアラバスク。村山和臣宮司様をはじめ関係者の方々にはごていねいなご案内等いただきました。誠にありがとうございました。

感謝状贈呈

假家英明総代「鈴緒」奉納

年 月 日



長年にわたる崇敬者であり総代を引き受けていただいている假家英明氏から、社頭に設けられた鈴を鳴らす鈴緒を全ての社に奉納された。8月24日日本社で奉納奉告祭が斎行され、併せて宮司から感謝状が贈呈されました。新調の鈴緒を得て各社の鈴は一段と清々しい音色を響かせています。



新十津川町長御一行正式参拝

新十津川町長熊田義信さんが8月20日正式参拝された。同町議会議長の長谷川秀樹さんも同行。7月に新十津川町で開催した初めての試みの「崇敬者のつどい」の際にご挨拶に伺いましたが誠に暖かみのあるご助言等をいただき心強かったですね。新十津川町との絆の深さを垣間見る思いでもありました。



正式参拝にて拝礼

このたびの御一行様の訪れ心から感謝。新十津川町そして十津川村の永遠の歩みの確かなこと祈念。ご参拝ありがとうございました。

宮司、熊田町長御一行と歓談



襖絵を楽しむ



出雲大社教 特立133年教団大祭

教団大祭は午後6時30分より。神楽殿大広間で大祭、引き続いてみたまむすびの靈行。大國主大神の鎮まられる聖域、特にご本殿瑞垣内の御神域である「おにわ」。この聖域を踏ませていただく「おにわふみ」は各人が持参する鈴の音のみが聞こえる沈黙の世界暗闇の中で。靈行はおにわふみで完結ではない。このような体験をさせていただいてよいのかな、不思議な世界ありがたいです。多くの方々に体験していただきたいです。



民族楽器奉納演奏

音楽家、写真家として旅暮らしをも楽しみながら活動中の鈴木茂生さん呼びかけでハンドドラム奏者、5人の舞姫とライヤー奏者の皆さん総勢8名で演奏と舞を奉納。鈴木さんはインディアアンルート、インディアンドラム等多種類の民族楽器をあやつり、また、雄叫びの如き声を発しながらの演奏、5人の舞姫の陶然とした表情、これは祈りの音色か舞か、それぞれ演奏もしかり。参拝者の方々も思わず足を止めていましたね。



演奏が佳境になると陶然した舞姫全員が踊りだす

玉置山文化サロン



盂蘭盆会

(うらぼんえ)

東本願寺東山浄苑

大谷暢順御法主台下ご挨拶



皆で明るく元気よく「ご先祖さんお帰りなさい！」

8月13日から16日まで営まれている。16日参詣させていただいた。初めてのことです。厳粛な行事が営まれるのだからと思いがち。これほど飛び込めだ。これはどうしたことだ、次々と展開する場面。はじけるようなにぎわいの盆ダンス御法主台下も舞う。ご一門の皆様方も参詣者も喜々として。

切れのある踊りについてゆけないがひたすら体をゆすって同化したつもり。場面は展開。曲水前法要。心も異次元の世界に誘(いざ)なわれていく感じ、御法主台下の御言葉。さわさわと五体を吹き抜けていく、何やら心にとどめて。往還灯籠奉納へ。

み空の星を花といい、この世の花を星という。あれ！どこかで聞いたかな。大輪の花が夕やみ迫る中で咲いたよう。参詣者それぞれの思いと共に灯籠流しへと。今宵



過ぎたこの時間は一体何だろう、夢か現か。参詣させていただきありがとうございました。さてどこへ行く風が吹く東山浄苑か！

篠笛演奏奉納

佐藤和哉さんの篠笛演奏が8月17日奉納された。この紙上でご紹介するのはいささか困難、そうですね。素晴らしい演奏でした。伸びがありボリューム感がたっぷり伝わる音色。奉納演奏での作法も見事で神々と対話しているかとさえ感じましたね。飛躍の道をしつかり踏みしめて歩み続け



てください。玉置山とご縁もいつまでも。ありがとうございました。

伝説の洋画家たち 二科百年展

お招きいただき9月11日大阪市立美術館での内覧会に寄せていただきました。展示されていたのは約120点、二科100年の歩み。著名な作家の作品のオンパレードに圧倒されました。このような凄い作品を前にしますと余りの迫力につかれます！ぜひ一人でも多くの方々に見ていただきたいと思えます。

二科展入選の経歴をもつ石坂浩二さんの音声ガイドのナレーションにもひき込まれました。

素晴らしい機会をいただき誠にありがとうございました。





悪魔退散)で、所作は口伝。男性の神子(みこ)が太鼓しやんしゃん鳴る神楽鈴に合わせ優雅に舞います。さらにいろんな奉納活動(音楽、舞、狂言、書、写真、彫刻など)を積極的に入れていきます。これらは神々へのご奉納ですので事前PRはしてありません。

好評の神社広報は全て「手づくり」

◇神社広報にも力を注いでいますが。知られないことは、何もしてないことと同じです。従っていろいろ発信を強化しました。広報紙「神代之風」第1号を平成25年1月新春号として発行しました。その後、年4回プラス臨時号を発行し、今回で第15号になります。全国の崇敬者の皆さんにお届けしていますが、大変好評です。「誰かプロに任せているのですか」とよく聞かれますが、いっさい「手づくり」。

◇編集者の上地恒夫さんはじめ適宜神社スタッフもかかわってくれております。

◇宮司の個性、人間味がにじんだ文章はともいいですよ。

—決して上手でないかもしれませんが、感じたままを素直に書いています。その他、ホームページのリニューアルも。

おもしろいのは神職同行の参拝研修旅行。これまでに伊勢神宮、出雲大社、白山比咩神社(石川県)の3回企画しました。神職の「食作法(じきさほう)」などを織りまぜました。ユニークな研修で、観光旅行ではないので窮屈に感じられるかな、と心配しましたが、その逆で、「こんな経験をしてみなかった」と喜んでいただき、参加者同士の交流の輪がどんどん広がっているようです。もうひとつ、「崇敬者の集い」を開催いたしました。

◇それは何ですか？

—玉置神社の崇敬者、つまりこの神社に心を寄せる方々は今把握しているだけで5000人を越えました。村外の方はさらにいっしょにいます。年1回くらいは、玉置山を下りて各地に出かけ、崇敬者の皆さんたちと交流したいと考え、始めたものです。実は、神社の財政運営ですが、崇敬者の皆さんからの例えば祈禱料とか社殿修繕費、お供えなどの収入でおおむね95%がまかなわれているのです。村内の方は全員が氏子です。現在、氏子さんからの会費はいっさいいただいております。そんなわけで、崇敬者の皆さんのお気持ちを大事にしたいのです。

◇その集いはどこで？

—第1回は今年7月、北海道の新十津川町で開きました。明治の大水害の時、村の人々が多く移住したところ。ここには玉置神社の御霊を分霊しております。その他、



県神社庁「大和学講座」



新十津川町にて



奈良まほろば館にて

東京の奈良県の施設・奈良まほろば館でも文化講座の講演をさせていただきました。玉置山ファンが詰めかけて下さり満席の盛況・・・ありがたく存じます。さらに県神社庁では「大和学講座」の一環とし講演をさせていただきました。

参拝者が激増 今、玉置神社が胎動—

◇エネルギーシユで驚きますね。神社の参拝者は増えたでしょう。

—おかげさまで激増しております。26年度は25年度対比で19000人増えて、47060人にのぼりました。平日でも5000人を越える時も。今年九月のシルバウィーク期間中、10000人を上回る方々が訪ね下さった日もございました。参拝の方から「今、玉置神社は胎動していますね」というお言葉をいただいています。要するに、何かが今、新しく誕生しようとしている、ということがあるのでしょうか。玉置の鳥たちも、「皆さん、ごきげんいかが？今日もようお参り」—にぎやかにそう鳴っていますよ。

心のセイフティネット

◇世の中、とても苦しみ、悩みの多い時代ですね。希望を持ってない人もたくさんいます。しかし、人は希望を捨てない。清く澄み渡った山の上に希望の一筋を求めて登って来られる方も・・・。

—安らぎだけでなく、心のセイフティネットと受け止めてもらえるようにしたい、と考えています。私の胸に「魚の釜中(ふちゆう)に遊ぶが如し」という言葉が浮かびます。滅亡の近いことを知らず、のんきに遊んでいくさま。釜の下からポイルされ段々温かくなっていく。

沸騰に気が付いた時には、もう遅い。こんな状況を私は常に心に止めております。勇気を持って一歩前へ出れば何か動き出す、人生を左右するのは環境ではなく「信念」「願望」である。そして歴史と品格はそう簡単には手に入らない。玉置山はこうした思いをしっかりと発信していきたいと考えます。

私のおしゃべりで皆さんを元気に

作家の林真理子さんが「見たいものを見に行ったりするなどすることは大事なことです。そうして費やしたお金は何が一番反映されるかといえは、会話のおもしろさです」とおっしゃっています。同感ですね。山上来られた皆さんに私のおしゃべりで少しでも癒しを感じ、「今日は良い日だった。元気が出たよ」と思っていただければ。

事実をしっかりと発信する必要

◇最後に、話残したものがあれば。

—そうですね・・・。「女人禁制の玉置神社に初めて女性神職として親類を採用した」などという趣旨の主張をしている人もおられる。先例あるにもかかわらず事実の確に把握しておっしゃる。私は健全な神社運営のためには、沈黙だけでなく事実をしっかりと発信し、誤解の無いようにしていかなければならない、と痛感しています。また参拝者、崇敬者の皆さんから、これまでになかったような質問がありますので、日々研鑽し、まだまだ勉強不足の自分を補っていかねば、と思っております。

◇玉置神社には素晴らしい数々の文化財があり、その保存策、さらに参拝者から強い要望のある宿泊受け入れなど多くの課題があるようですが、それらはまたの機会に。

終わり

独り言

白状すると、長時間のインタビューは疲れ切った。弓場宮司は博学の人。年間100冊の読書家相手、次々繰り出す名言、引用語などに「うぬぬ」と、話には相当深刻な内容が含まれたが、かなり抑えて語っていたような印象がある。文章化には神経を使った。

—歴史では「もしも」があるが、直感だが、宮司には「もしも」は不似合いだろう。現実主義と理想主義、温和と厳格が混在した不可思議さ。あえて表現すれば、若者風には「かわい〜い」だろうか。「武士(ものぶ)」の魂を感じたのは幻想だろうか。

(水野)

参籠朝拝体験

平成26年に玉置神社で初めて参籠朝拝体験を試みました。
その経験の上で今年度も9月19日から20日の1泊2日で開催しました。
この体験は1000以上の玉置山に鎮座している玉置神社を会場としているのが一番の魅力になっています。

玉置神社の中で御神威溢れる雰囲気を感じながら、正式な参拝の作法・正坐・朝拝・祝詞清書・神子・巫女・食事作法・登拝等の体験など毎回内容は様々あり、体験を受けた参加者から大変喜ばれています。
一度体験をしたら玉置神社のファンになる

方がほとんどで、後にはボランティアとして玉置神社での催しのお手伝いに来られる方も増えています。



早朝の掃除から

神社の歴史など学ぶ



模絵を見学



雅楽交流

平成26年から「榎原会場」で21年間続いている「雅楽教室」のメンバーと玉置神社の職員との雅楽交流の会が開かれている、今年度は8月31日と9月1日の両日に別れて開催された、榎原から雅楽教室に参加している方々が11時頃に到着し、玉置神社で正式参拝の後に御本殿で「越天楽」一曲を奉納された。普段の教室とは違う環境で緊張しながらの演奏で参加者の心の中に強い思い出が出来たようだ。
昼からは社務所で交流の雅楽教室が開かれ充実した時間をこの玉置神社の境内で過ごされ、遠くまで来て参拝がそれからも嬉しかったと話されていた。
これからもこのご縁を深めるためにも続けて参りたいものです。



交通安全キャラクター・グッズの安全祈願

キャラクター・グッズ製作作業中の皆さん



交通安全週間中にドライバーに手わたすための「交通安全キャラクター・グッズ」の製作作業と安全祈願のため、五條警察署十津川警察庁舎田中郁二所長他2名と、交通安全協会の皆さんが来社。

神社日誌抄

1日は出雲大社玉置教会、15日は三柱神社、24日は本社の月次祭、8日は大日堂社の開帳を執り行っています。

- 6月14日 ・十津川村商工会東さん他青年部6名の方々が清掃奉仕
- 6月29日 ・玉置山山頂防災無線ネットワーク拡充の為関係者現地視察説明
- 6月30日 ・夏越大祓茅の輪神事執り行われた
- 7月7日 ・夏越大祓茅の輪神事に林真理子さんボランティア参加
- 7月7日 ・出雲大社「くたまの会」宮司出席
- 7月9日 ・出雲大社教第五教区夏季研修総会に宮司出席
- 7月10日 ・竹林院ご一行32名様参拝
- 7月11日 ・第一回玉置神社崇敬者のつどい「が北海道新十津川町で開催
- 7月16日 ・台風11号接近の為宮司他職員2名が泊まり込む
- 7月21日 ・境内石垣の一部が崩落文化庁から五島昌也文化財調査官が現地調査
- 7月22日 ・大阪大学調査研究グループご一行様5名が参拝
- 7月24日 ・新十津川町児童生徒職員訪問団37名が来社
- 7月24日 ・「恋しくて十津川」作詞作曲者福西輝恒さんカラオケ全国展開決定お礼の正式参拝
- 8月6日 ・国際民間協力団体公益社団法人アジア協会アジア友の会8名様が来社宮司と意見交換
- 8月8日 ・常立杉災害復旧工事作業開始
- 8月8日 ・大日堂社大祭
- 8月17日 ・出雲大神宮岩田昌憲宮司他7名様が正式参拝
- 8月20日 ・篠笛奏者佐藤和哉さん篠笛奉納演奏
- 8月20日 ・三重県神社庁神道行法練成研究会ご一行16名様正式参拝
- 8月22日 ・新十津川町長熊田義信他4名様正式参拝
- 8月22日 ・午後13時〜14時30分責任役員会総代会合同総会開催
- 8月23日 ・参籠朝拝体験女性14名参加し開催
- 8月24日 ・総代假屋英明さん鈴緒奉納奉告祭齋行
- 8月25日 ・台風15号接近、対応準備
- 8月28日 ・奈良県広域消防担当者が玉置山山頂のへりによる資材搬入完了との報告に来社
- 9月7日 ・宮司、東京で文化講演
- 9月12日 ・白山比咩(ひめ)神社正式参拝研修旅行